

令和2年
3月15日号
広報
No.640

あきる野

今号の主な記事

- ・令和2年度教育方針…2面
- ・【延期】令和2年度狂犬病予防集合注射…4面
- ・国税庁からのお知らせ確定申告期間延長に伴う申告場所の変更…4面



「あきる野の匠」とは、市の自然、歴史、文化から受け継いだ伝統の味、技法、熟練の技術などの承継者等です。今年度は、新たに申請を受けた中から審査により2人を認定しました。市では、今までに10人の匠を認定しています。詳しくは、右のコードからご覧ください。



今後の「あきる野の匠」の活動

今後は「あきる野の匠」として、市が主催する産業祭などのイベントで、匠の技の披露や体験、商品の展示・販売をします。また、匠のこだわりを紹介する冊子の作成などを予定しています。

○問合せ 観光まちづくり推進課観光まちづくり推進係 (☎595-1135)



竹加工の匠

江守廣さん (71歳)

江守氏が製作している竹灯りは、市内の孟宗竹を材料としている。竹の表面をナタでそぎ落としした後、厚さ約5ミリほどに削り、約100度の熱風で乾燥させることで磨き竹ができあがる。この磨き竹の表面に、電動ドリルやジグソーを使って繊細な模様を彫ることで、美しい竹灯りの完成である。



竹灯りは、内側から照らすことで彫った穴から光が外に漏れ、背景に幻想的な光景を映し出す。竹加工を通じて、放置竹林問題の解決や子どもたちに竹との触れ合いを経験させるなど、地域と竹とのつながりにも精力的に取り組んでいる。

○「東京竹灯り(呑竹工房)」(乙津733、土曜・日曜日開館、午前10時～午後4時)



布団作りの匠

高橋卓実さん (36歳)

昭和28年創業の「ふとん工房たかはし」は、五日市のまちで、代々布団や衣類などを販売している。木綿布団の文化を残していきたいという思いを胸に、地域に根ざした布団づくりを行っている。「寝具製作一級技能士資格」や「第30回技能グランプリ掛け布団の部優勝」が示す確かな技術で、注文したお客様の要望や体型に合うように、ひとつひとつ手作業で仕上げられた布団は、どれも唯一無二の商品である。手間はかかるがしっかりと管理し、打ち直しをしていけば半永久的に使用できる木綿布団の魅力を多くの人に知ってもらいたい。



○「ふとん工房たかはし」(小中野392-4、☎596-0345、月曜日は定休、午前9時～午後7時)

新型コロナウイルス感染症が市内でも発生していることから、市では、市民の安全・安心を確保するため「感染症対策本部」を設置し、感染症の防止対策に取り組んでいます。市民の皆様にも、咳エチケットや手洗いなどの基本的な感染症対策に努めていただくようお願いします。新型コロナウイルス感染症対策における市の対応等については、市ホームページで情報提供していますので、ご確認ください。



あきる野市長 村木英幸

世帯と人口

— 令和2年3月1日現在 —

世帯 35,887世帯 (前月比 5世帯増)

人口 80,624人 (前月比 33人減)

男 40,217人

女 40,407人

広報あきる野は、毎月1日と15日に新聞折込と個別配布でお届けしています。市内に住所があり、折込対象の新聞を購読していない方は、市に個別配布をお申込みいただければ、無料でお届けします。また、市のホームページでもご覧になれます。詳しくは市長公室にお問い合わせください。

再生紙を使用
しています